

## 【実践報告】

# 「生徒の理解」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 森 哲 之  
講師 武 田 千 絵

## 1 はじめに

本科目は、中学校・高等学校教諭を目指す学生が1年次後期に履修する科目であり、たくましい実践力のある中学校・高等学校教諭になるための導入となる。ここでは、中学校での2回の実地観察を通して、生徒を対象とした記録等の方法を修得するとともに、子ども理解の重要性を体験的に理解することをねらいとしている。なお、本科目は「幼児の理解」「児童の理解」と連携しており、幼児期から小・中・高等学校へと成長する過程を見通し、お互いの観察での気づきを発表し合い、そこから得られる知見と体験を共有している。2024年度の履修者は、教育学科中等教育専攻1年 38名（国語教育コース希望者29名、英語教育コース希望者9名）であった。

## 2 実施のスケジュール

15回の授業実施内容は下表のとおりである。その中で、「幼児の理解」「児童の理解」「生徒の理解」合同で授業を実施する機会を設け、他校種の学生を交えたグループで「校種間交流」を行っている。また、本科目の目標は、中学校等における生徒の学校生活や学習の実態を観察し、生徒の発達・学びを把握、対応方法等を考えることである。生徒理解から発達・学びを捉え、生徒理解を深めるための教師、観察・記録の意義、観察法、個と集団の関係や人間関係、その他について、講義やグループワーク、現場の実地観察などを通して理解している。

回	月日	内容	授業形態
第1回	①10/ 3	ガイダンス ※後半は科目ごとに実施	合同（幼児・児童・生徒） ※生徒
第2回	②10/10	子ども理解の意義	合同（幼児・児童・生徒） ※生徒
第3回	③10/17	心がまえ・諸注意	合同（幼児・児童・生徒） ※生徒
第4回	④10/24	観察の目的 ※後半は科目ごとに実施	合同（幼児・児童・生徒） ※生徒
第5回	⑤10/30	実地観察Ⅰ（広島市立可部中学校）	生徒
第6回	⑥11/ 7	記録に基づいた討議	生徒
第7回	⑦11/ 7	エピソードの書き方	生徒
第8回	⑧11/21	エピソード記録に基づいた討議	生徒
第9回	⑨11/27	実地観察Ⅱ（広島市立可部中学校）	生徒
第10回	⑩12/ 5	討議と発表	生徒
第11回	⑪12/ 5	討議と発表	生徒

回	月日	内容	授業形態
第12回	⑫ 1/16	校種間交流	合同（幼児・児童・生徒）
第13回	⑬ 1/16	校種間交流	合同（幼児・児童・生徒）
第14回	⑭ 1/23	まとめ	合同（幼児・児童・生徒）
第15回	⑮ 1/23	まとめ	生徒

### 3 実地観察（観察実習）

「生徒の理解」の第5回と第9回では、広島市立可部中学校において、2回の実地観察（観察実習）を行った。実習生38名を5グループ（国語4グループ、英語1グループ）に分け、授業見学等をグループごとに行った。

1回目は、様々な教科の授業における生徒の観察である。グループごとに、各学年の、社会、理科、家庭科、数学、英語の授業時の生徒を中心に観察した。2回目は、希望する専門のコースにより、それぞれ各学年の国語と英語の授業の生徒を中心に観察した。暮会も、各学年の様々なクラスに配属され、特色あるクラス運営と共に生徒を中心に観察した。また、校長先生、教頭先生のご講話では、昨今の生徒に関する具体的な状況、指導方法等を詳しく教えていただいた。

#### ①観察実習の日程

- ・ 1回目：10月30日（水）
- ・ 2回目：11月27日（水）

#### ②観察実習当日のタイムスケジュール

- 12：45 中学校内入室  
\*実習生代表挨拶
- 13：00－13：20 校長先生のご講話（オリエンテーション）
- 13：30－14：20 5校時（授業見学）
- 14：30－15：20 6校時（授業見学）
- 15：25－15：35 掃除（待機）
- 15：40－15：55 暮会（終学活見学）
- 16：00－16：20 中学校の先生（教頭先生）のご講話  
\*実習生代表お礼の挨拶

#### ③観察する授業

- ・ 1回目（教科を問わない）→38名の実習生を5グループ
- ・ 2回目（国語4、英語1）→38名の実習生を、国語4グループ、英語1グループ  
※1・2回目共通して、国語29名（8,7,7,7）の4グループ、英語9名の1グループ

### 4 成果と課題

成果としては、生徒の実態を細かに観察し記録としてまとめる力が高まり、学生が「生徒」「学校」「教師」を知る貴重な教育体験ができた。観察実習における生徒の言動からエピソード記録を作成し、伝え合い、生徒の発言や行動に注目しながら生徒一人ひとりの発達や学びについて考察できた。グループでの対話を通して、他者の視点に気付き、個の発達や学びに関する理解を深められた。討議・発表・

共有することにより、自身の意見を伝え、他者の意見に傾聴し学ぶことができていた。全体を通じて、「幼児の理解」「児童の理解」「生徒の理解」を相互につなぐことができ、幼稚園・小学校・中学校への接続を考える機会となった。2回の観察実習及び校種間交流を通して、教師目線で教育活動の営みを具体的に意識化することができた。

課題としては、観察実習においてより積極的、主体的に教育現場、教員、生徒と関わられるよう、工夫を要することである。

以下は、「観察実習」「校種間交流」全体を通しての学生の意見・感想の一部である。

〔校種間交流会：他校種の学生と交流し、子どもの理解において考えたことや気付いたこと〕

- ・年齢の差はあれ、子どもはそれぞれだと思った。幼稚園生だから、小学生だからと括れるわけではなく、こういう子がいたけど、こんな子もいてというようにほんとに多種多様だった。ほかの人と交流すると、私が同じ場所で観察していたら注目することができたかなというような細部にまで目を向けられていて、興味深かった。校種それぞれの学びの方法の違いに驚く場面も多くあった。幼稚園でも、年齢によってできないことを助け合うという姿は中学校での共同的な学びによって得られる学びと少し似たものがあるのではないかと感じた。
- ・幼児の理解、児童の理解、生徒の理解それぞれの校種の実習について聞くことによって子どもについての興味・関心が高まった。子どもってどんな存在なのか考え、交流することによってより学びを深めることができた。年齢という違いはあるけれど、子どもという大きなくくりの中でそれぞれ学ぶことがたくさんあった。交流ができる機会は、とても有意義な時間であったと感じた。
- ・校種間交流の振り返りを行いました。それぞれのコースで同じくらいの年代の子ども達の様子を見ているはずなのに、一人一人感じ方が異なっており、着目する点が様々でとても面白く感じました。これからも他校種との交流ができる機会があれば、自身の成長につながると感じました。

〔「生徒の理解」授業全体を通しての感想〕

- ・授業全体を通して、様々な視点や考え、解決策を知ることができました。自分では考えつかないような視点が見られて、自身の視野の拡大につながったように思います。また、他校種との交流を行ったことで、接続の部分の教育ですべきことがはっきりしてきたように感じました。
- ・先生方からお話を聞き、教師という職業は人と人がつながる仕事であると思った。子どもに対する考え方に正解、不正解はなく奥が深いものだと感じた。いろんな人から考え方を聞くことでたくさん吸収して自分のものにしていきたいと思った。2年生では、学校教育の体験活動という科目の中で、今よりもっと具体的に広がっていく。今学んできたことや、これから学ぶことが本実習につながるため、改めて次年度も頑張ろうと思った。良くも悪くも期待を裏切ってくる子どもの行動に、興味・関心を持ちたい。
- ・交流会が非常に面白かった。校種が違って似たようなエピソードがあり、自分の行った中等の実習とは全く異なったエピソードを聞くことができた。その後に、また中等内で意見共有できたのがよかった。はじめは、1年生のうちから実習に行くことに緊張していた。事前の準備をきちんとして、座学でも子どもに対する理解をきちんと深めたうえで観察実習に臨むことができた。特別支援学級の実習に行った人の感想や意見、エピソードを聞くことができたのが貴重で良かったと感じた。
- ・中等教育専攻の生徒と校種間の感想を共有し合ったことで、幼・保、小、中の連携の大切さについて改めて考えを深めることができた。それぞれの感想を聞いて驚いたことや感心したことがたくさんあったので、それらを踏まえて子どもたちそれぞれの発達段階の特徴を理解し、教育者として視野が広く柔軟な教育ができるようにこれからの勉強や実習に取り組んでいきたい。